



インドネシア

BOP層実態調査レポート

概要

インドネシアのBOP層にも家電製品は入り込んでいるが、それは電化率の上昇と関連している。国営電力会社(PLN)によると、2012年時点での全国の電化率は75.9%であり、それを2016年までに83.4%へ引き上げる計画である。各家庭に配電されるのが一般的だが、なかには既存の電線から盗電する者も少なくない。

このようにして、BOP層の家庭で電気が使われるようになって、最初に購入する家電製品はカラーテレビである。インドネシアでは、白黒テレビの時代はほんのわずかで、すぐにカラーテレビが一般化したため、白黒テレビの存在を知らない人が多い。電化率の向上とともに、一軒に1台、という方向へ向かっているが、BOP層でも、都市部に住む者にとってカラーテレビはすでに必需品となっている。

カラーテレビのメーカーは、様々であるが、全般には韓国製(サムスン、LGなど)が最も多く、日本製はその次、さらに中国製(Haier、TCLなど)、インドネシア製(Sanken、Polytronなど)である。地方の農漁村では、聞き慣れないメーカー名(Akira、Sumoなど)の製品があるが、中国製で日本を想起させる名前をつけた廉価品のようである。こうした農漁村ではまだカラーテレビを持つと言うことがコミュニティにおける一種のステータス・シンボルとなっている。



南スラウェシ州の農村のある家庭に置かれたカラーテレビとビデオCDプレーヤーのセット。多くの場合、クレジットなどで購入し、収穫期後など現金が入ったときに返済している。

カラーテレビの次にBOP層の購入する家電製品は、以前はビデオCDプレーヤー、今ではDVDプレーヤーであった。インドネシアでは日本のようなビデオはあまり普及せず、ビデオCDが普及した。その多くは、国内外のテレビ番組や映画などを違法録画した海賊版である。これらの海賊版ビデオCD(現在ではDVD)はかなり出回っており、農漁村でもけっこう視聴されている。もっとも、テレビは1日中付けたままの状態になっている家が多く、海賊版ビデオCDなどは夜間に視聴されている様子である。農漁村では、プレーヤーのある家に集まってみんなで視聴しているという話も聞く。





携帯電話は、急ピッチで進む通信塔の建設に伴って、都市部はもちろん、農漁村でも急速に拡大している。携帯電話の普及に伴って、ビデオCDプレーヤーやDVDプレーヤーの購入が鈍っている気配がある。すなわち、BOP層で携帯電話を購入した人々は、携帯電話で画像を見る傾向が強まっているからである。

カラーテレビ、ビデオCDプレーヤー(DVDプレーヤー)、携帯電話の他の家電製品では、都市部のBOP層においては、冷蔵庫、炊飯器やミネラルウォーターのディスペンサーも所有されている。洗濯機を所有している家はあまり多くなく、洗濯はまだ手洗いが主流である。なお、洗濯機については、富裕層でも、使用人を使っているところでは持っていない場合が少なくない。

このほか、エアコンを持っているBOP層はまだまだ限定的であり、代わりに扇風機を持っている家はあるが、BOP層が普通に所有しているわけではない。オーブントースター、電子レンジ、掃除機など、日本ならばおなじみの家電製品は、インドネシアのBOP層の家庭にはほとんど普及していない様子である。



ジャカルタの都市の中所得層の家庭に置かれた冷蔵庫と炊飯器。冷蔵庫は日本製。炊飯器は当初、インドネシアの米には合わないといわれていたが、技術改良を重ねて、今ではうまく炊けるようになった。なお、インドネシアの炊飯器トップメーカーは地場企業である。

所感

家電製品の普及には、電化率の向上と電気使用の増大が必要になる。また、電気代が高いと普及はなかなか進まない。太陽光やミニ水力などの代替エネルギーによる発電もまだ進んでいない。こうした電気供給インフラの整備が家電普及に欠かせない。

一方、電気アクセスできるようになったBOP層が何に電気を使うのかも考察する必要がある。筆者の観察では、家の灯りのほか、テレビ、携帯電話の充電、の3つが主な用途である。彼らの日常生活から発想して、どのような家電製品を使うようになるのとどのように便利になるのか、家事の負担が軽減されるのか、をBOP層の感覚で実感できるような家電製品から普及させていく必要があるのではないかと。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。